



## 01 同梱物を確認しよう

パッケージを開いたら、すべてのものが入っているか確認してください。不足している場合は、お買い上げになった販売店にお問い合わせください。  
※ このパッケージには、キック・ペダル、ハイハット・スタンドは含まれていません。市販のものをお使いください。

MDS-4KVX / MDS-Compact

※ スタンド (MDS-4KVX / MDS-Compact) の付属品は、それぞれの取扱説明書を見ながら確認してください。



キック・パッド (KD-10)



V ハイハット (VH-10)



V シンバル クラッシュ用 (CY-12C x 2)



V シンバル ライド用 (CY-13R)



V パッド スネア用 (PDX-12)



V パッド タム用 (PDX-8 x 3)



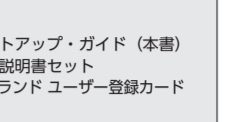
ドラム音源 (TD) (TD-17)



接続ケーブル (TD 専用)



トリガー・ケーブル



ACアダプター

TD-17KVX パーツ

- セットアップ・ガイド (本書)
- 取扱説明書セット
- ローランドユーザー登録カード

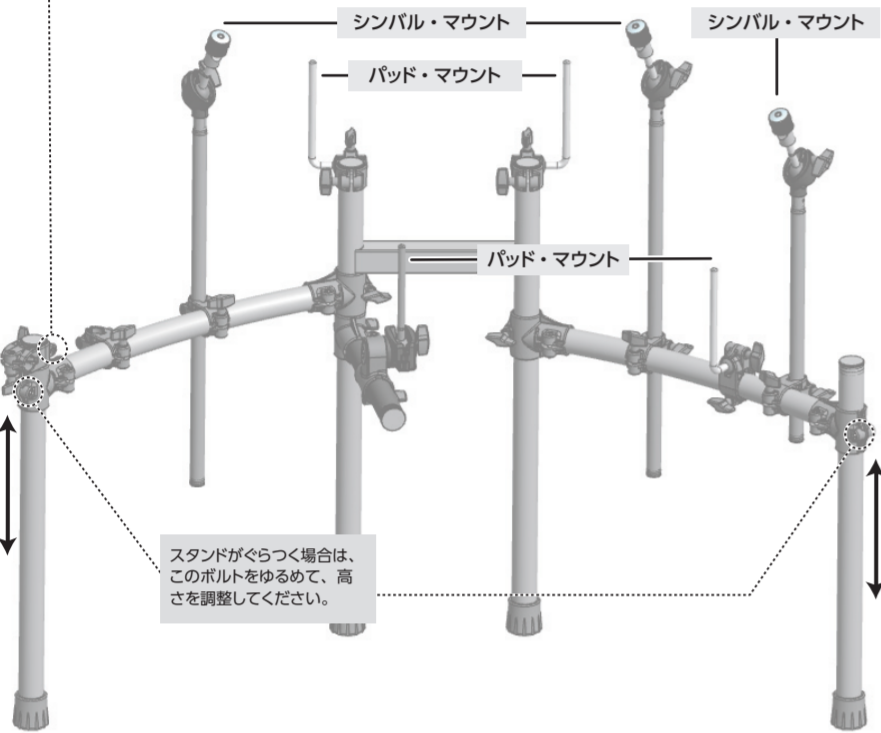
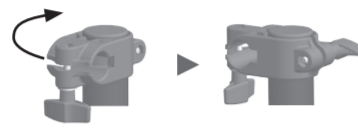
## 02 スタンドを組み立てよう

※ マウントの先端はとがっています。取り扱いに注意して作業してください。  
※ スタンドのセッティングや収納をするときは、スタンドを持っている指をばさまないように注意してください。

## 組み立ての手順

スタンド (MDS-4KVX または MDS-Compact) は、それぞれの取扱説明書の手順に従って組み立ててください。

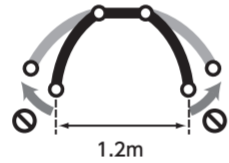
このハンド・ノブをゆるめて、マウント・ホルダーを矢印の方向に 90 度回転させます。



## MDS-Compact

スタンドが MDS-Compact の場合は、取扱説明書の手順に従って B タイプ (ライド・シンバル用) で組み立ててください。

※ 安全のため、両端のスタンド脚パイプの距離を 1.2m 以上離さないでください。



## 03 各パーツを取り付けよう

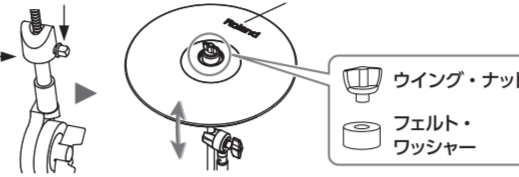
クラッシュ・シンバル (CY-12C) とライド・シンバル (CY-13R) を取り付ける

MDS-4KVX

ドラム・キーで締めつける [Roland] の文字を演奏者から見て奥側に

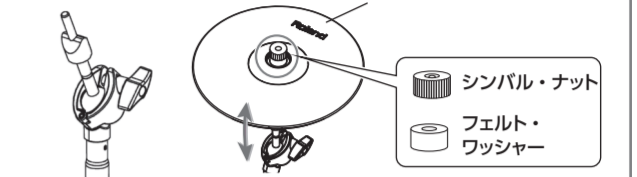
回り止め (向きに注意)

ボルトは、演奏者側から見て右側になるように取り付けます。



MDS-Compact

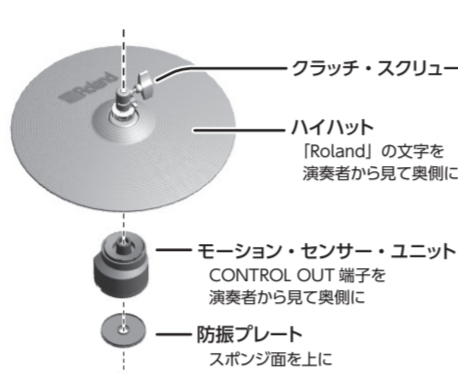
[Roland] の文字を演奏者から見て奥側に



適度な揺れが得られるように、ウイング・ナットを締めます。シンバル付属のウイング・ナットとフェルト・ワッシャーをお使いください。

適度な揺れが得られるように、シンバル・ナットを締めます。シンバル付属のシンバル・ナットとフェルト・ワッシャーをお使いください。

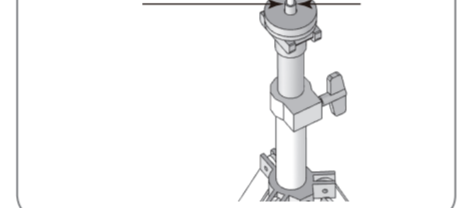
## ハイハット (VH-10) を取り付ける



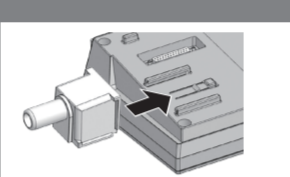
## 取り付け可能なハイハット・スタンド

直径: 6.0 ~ 7.0mm

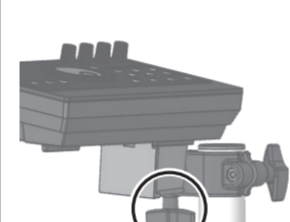
直径: 最大 11.7mm



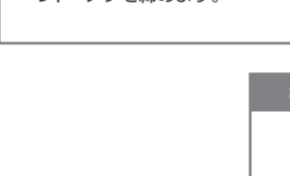
## TD を取り付ける



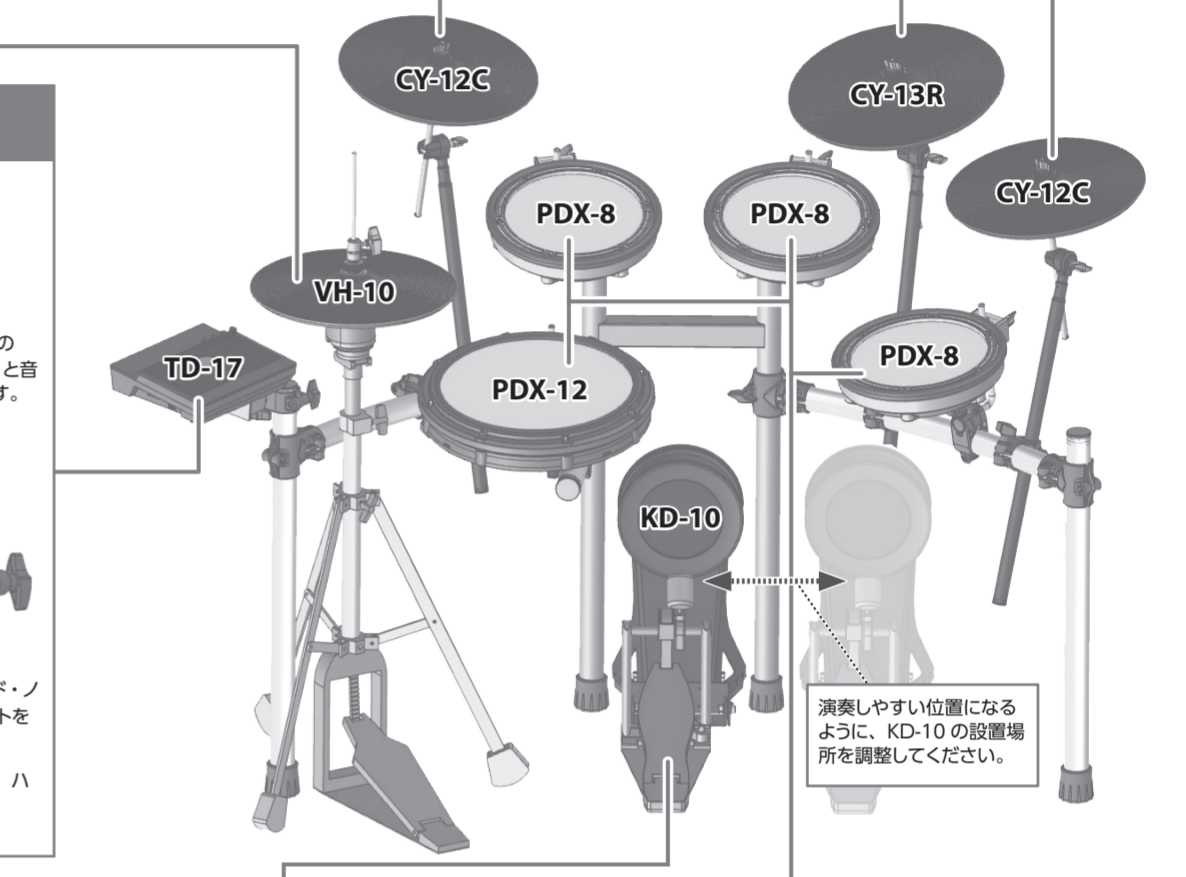
1. 音源マウントの突起を本機のレールに合わせ、「カチッ」と音がするまでスライドさせます。



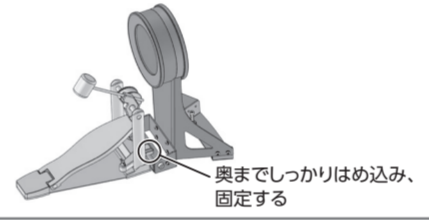
2. マウント・ホルダーのハンド・ノブをゆるめて、音源マウントを差し込みます。



3. TD の角度を調節してから、ハンド・ノブを締めます。



## キック・ペダルを取り付ける (KD-10)

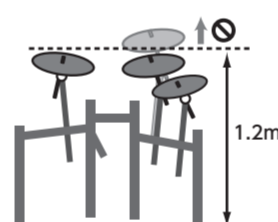


## スネア (PDX-12) とタム (PDX-8) を取り付ける

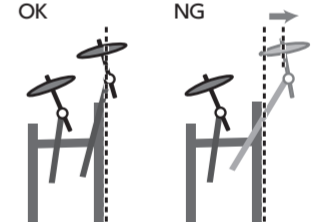


## シンバルの位置調節

シンバルの最も高い部分が 1.2m 以下になるように、ロッドの高さを調節してください。



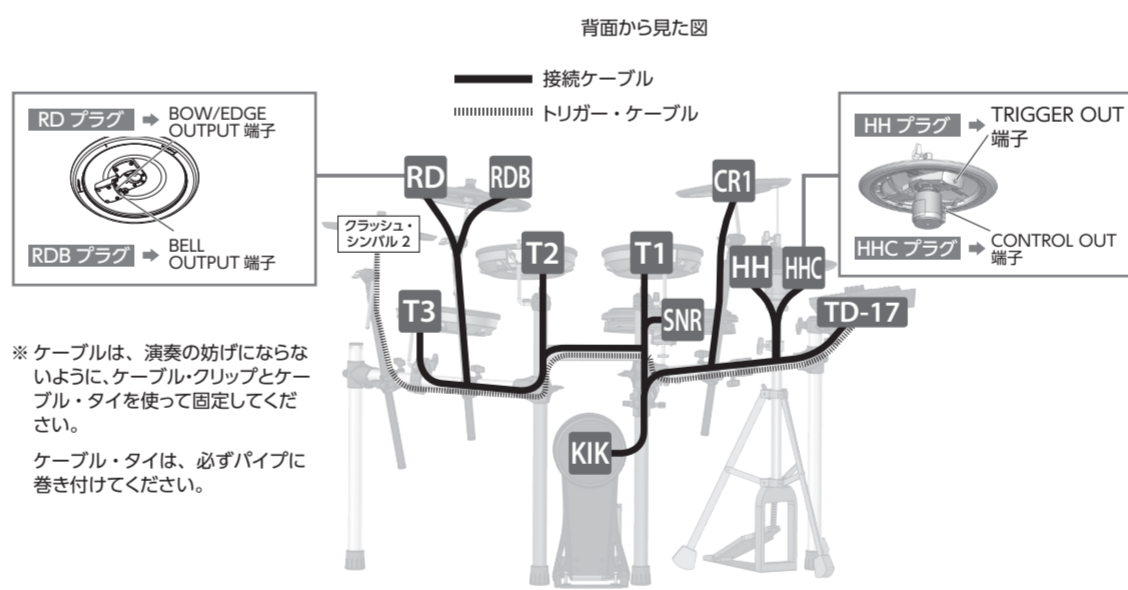
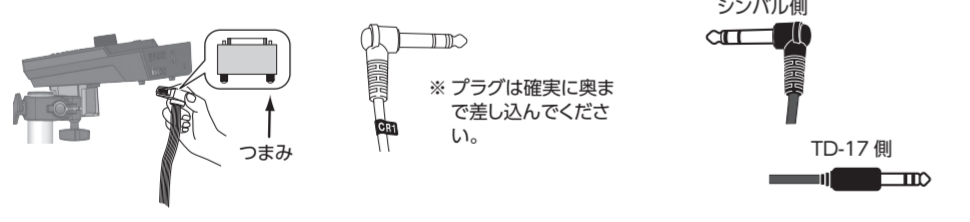
シンバルの中心が、本体のパイプ (スタンドの一番後ろ側のパイプ) よりも後ろにはみ出さないように取り付けてください。



## 04 パッドと TD を接続しよう

## 接続の手順

- 接続ケーブルを図のように TD に接続します。コネクタを奥まで差し込み、つまみを回して固定してください。
- ケーブルには、接続するパッドを示したシールが貼られています。図を参考に接続してください。
- クラッシュ・シンバル 2 は、付属のトリガー・ケーブルを使って、TD の CRASH 2 端子に接続します。



## 05 AC アダプターやスピーカーを接続しよう

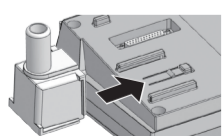
TD の取扱説明書を参考にして、AC アダプター、スピーカーやヘッドホンに接続します。

※ 他の機器と接続するときは、誤動作や故障を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞り、すべての機器の電源を切ってください。

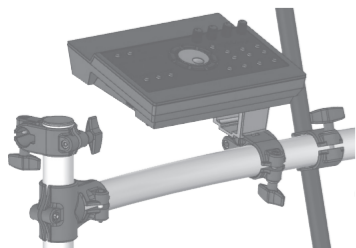
## TD を別の場所に取り付ける

TD の取り付け位置を変えて、図のようにハイハット・スタンドが外側になるようなセッティングにすることができます。

- 音源マウントを下図のような向きにして、TD に取り付けます。



- カーブ・パイプ L にあるマウント・ホルダーのうち、シンバル・マウントを取り付けない方のマウント・ホルダーに、音源マウントを差し込みます。



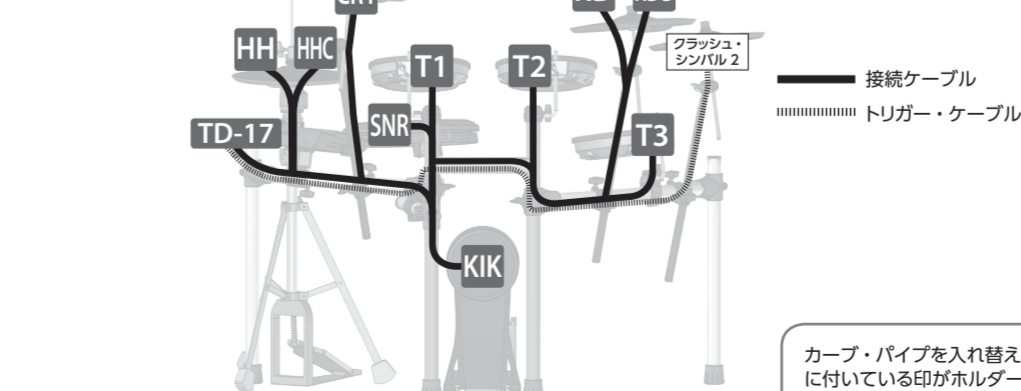
## 左利き用のセッティングにする場合

本ガイドで説明しているセッティングは右利き用です。左利き用のセッティングにする場合は、以下のよう部品を付け替えてください。

- カーブ・パイプ L と R、ストレート・パイプ L と R を左右対称に入れ替える。
- ホルダー C とスネア・パイプを右側に付け替える。
- 各パッド/シンバル類を、取り付けマウントごと左右対称に入れ替える。
- TD を、音源マウントごと左右対称に入れ替える。

ケーブルは、図のように接続してください。

背面から見た図



クラッシュ・シンバル 2 は、付属のトリガー・ケーブルを使って、TD の CRASH 2 端子に接続します。

カーブ・パイプを入れ替えたあと、パイプに付いている印がホルダーのすき間から見えるように、パイプに取り付けます。



キャップをはずして、ホルダー C とスネア・パイプを取りはずし、右側に付け替えます。

これで、組み立てと接続が完了しました。


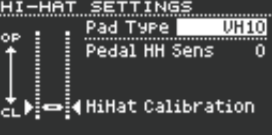
■ 接続が完了したら『TD-17 / 17-L 取扱説明書』の手順に従って電源を入れ、音が鳴るかを確認してください。

# 各パーツの詳しい説明

## ■ VH-10 (ハイハット) の調整

VH-10を使用するときは、接続した後に必ずTDでオフセットの調整をしてください。オープン、クローズやペダルの動きを正しく検出するために必要です。

### 01 オフセットを調整します。

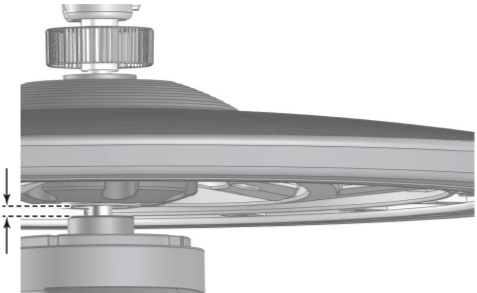
1. ハイハットがモーション・センサー・ユニットから完全に離れた状態で、TDの電源を入れます。
2. VH-10のクラッチ・スクリューをゆるめ、ハイハットをモーション・センサー・ユニットの上に自然に置いた状態にします。
3. [SETUP] ボタンを押します。
4. ダイヤルで[Hi-Hat Settings]を選び、[ENTER] ボタンを押します。
5. ダイヤルを回して、Pad Typeを[VH10]に設定します。
6. 画面右側に表示されるメーターを見ながら、VH-10のVHオフセット調整ネジを回して調整します。  
メーターに「」が表示されるように調整します。  

7. [DRUM KIT] ボタンを押して、KIT画面に戻ります。

オフセット調整ネジ



クローズド・ハイハットの音が鳴らづらい場合は、VHオフセット調整ネジを「CLOSE」の方向へ回します。  
オープン・ハイハットの音が鳴らづらい場合は、「OPEN」の方向へ回します。  
※ 強打時に音が途切れるときは、VHオフセット調整ネジを「OPEN」の方向へ回してください。

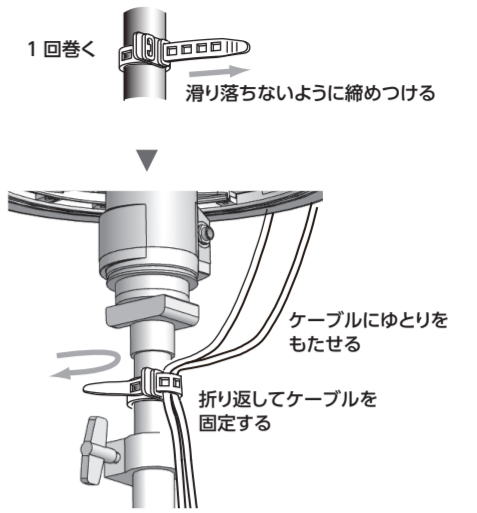
### 02 ハイハットを調整します。

1. ハイハット下側中心の成型部品とセンサー中心部先端との間隔を3mm程度に調整し、クラッチ・スクリューを締めつけます。  
  
※ 間隔は、演奏しやすい距離に調節できますが、狭すぎたり広すぎたりすると誤動作をして思い通りに演奏できないことがあります。3mmが、最も自然な感じでVH-10を演奏できる間隔です。
2. ペダルのパネのテンションを、ハイハット・スタンドで調節します。  
※ スタンドによっては、調節できない場合もあります。

#### ご注意!

ハイハットには正しい向きがあります。「Roland」の文字を演奏者から見て奥側にしたときに、最適な感覚が得られます。

### ケーブルの固定方法



#### ご注意!

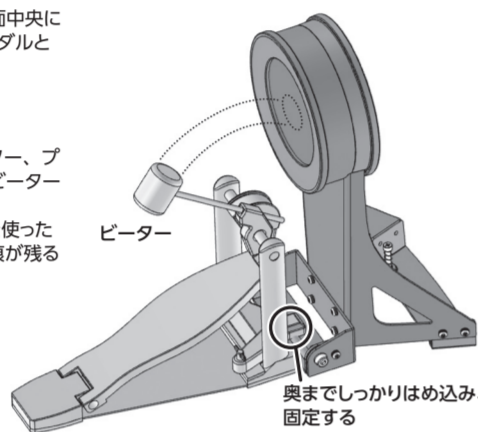
※ ご使用の年月とともに、パッドのゴム表面が変色することがありますが、使用上には影響ありません。  
※ ハイハットクラッチをはずしてしまったときは、取扱説明書の「ハイハットクラッチを取り外してしまったときは」をご覧ください。

## ■ KD-10 (キック)

### 01 キック・ペダルを取り付けます。

ピーターの位置がKD-10の打面中央に当たるように調整し、キック・ペダルとKD-10を確実に固定します。

※ ピーターは、フェルト・ピーター、プラスチック・ピーター、ウッド・ピーターなどをお使いいただけます。ただし、フェルト・ピーターを使ったときは、打面にフェルトの打痕が残る場合があります。

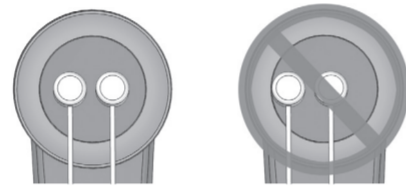


### ツイン・ペダルを使う場合

図のように、左右のピーターがパッドの中心から等しい距離になるようにセットしてください。ピーターの位置がずれると、片方のペダルの音が小さくなったり、正しく発音しなかったりすることがあります。  
また、ツイン・ペダルを使用した場合、シングル・ペダルに比べて、感覚が低くなります。音源側の感度 (Sensitivity) を上げてください。  
詳しくは、TDの取扱説明書をご覧ください。

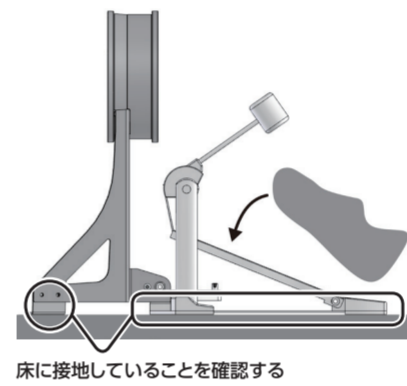
正しい設置例

悪い設置例



### 02 キック・ペダルを踏んで、取り付けを安定させます

KD-10のベースとキック・ペダルが床に接地していることを確認してください。

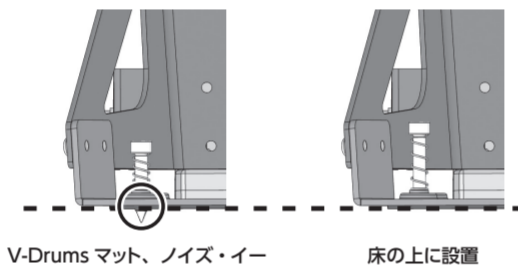


#### ご注意!

※ KD-10とキック・ペダルを確実に取り付けてください。  
※ 指を挟まないよう、十分に注意しながら作業してください。  
※ 使用状況によっては、ペダル取り付けプレートのボルトがゆるみ、演奏時にペダルがたつことがあります。その場合は、市販の工具を使ってボルトを締めつけてください。

### 03 アンカー・ボルトを調整します。

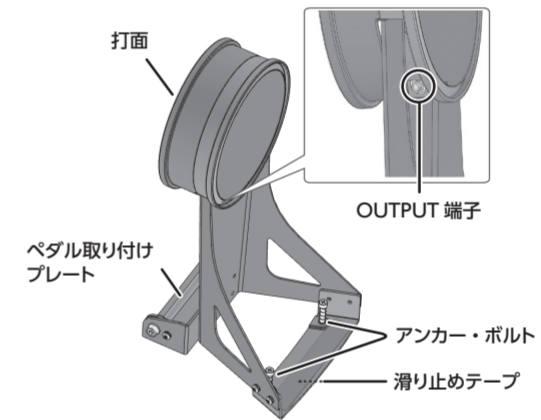
V-Drums マット、ノイズ・イーター (NE-10)、またはカーペットの上で使用する場合、ベースに付いている滑り止めテープによってKD-10が固定されます。  
それだけでは安定しないときは、アンカー・ボルトの先端をベースから出して使おうと、さらにKD-10が固定され、演奏しやすくなります。



#### ご注意!

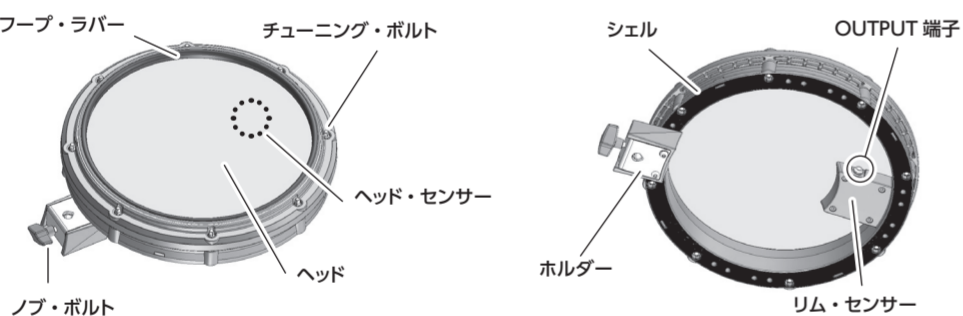
※ フローリングなどの床でアンカー・ボルトを使用すると、床を傷つける恐れがあります。  
※ アンカー・ボルトの先端はとがっていますので、取り扱いに注意してください。

### 各部の名称



## ■ PDX-12 (スnea)

### 各部の名称



### ヘッドの張り具合を調節する

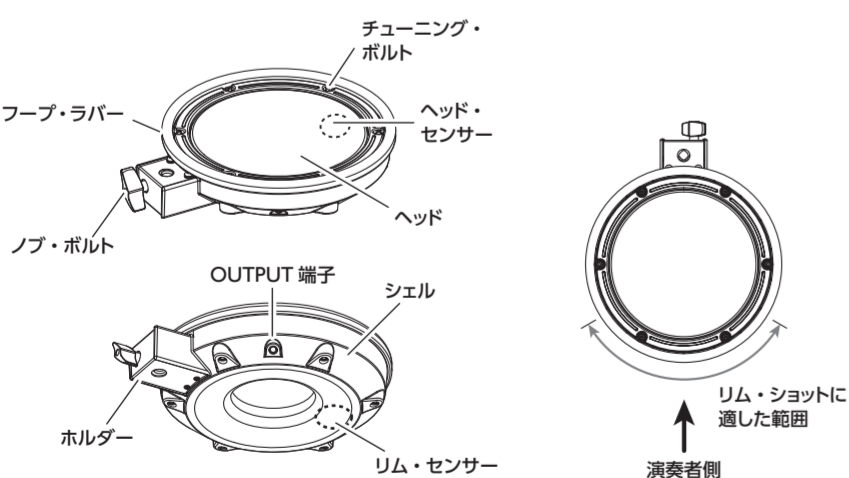
工場出荷時は、ややゆるめの張り具合に調整されています。ご使用になる前に、ヘッドをやや強めに張ってください。



1. それぞれのチューニング・ボルトを、図のように対角線を結ぶ順に少しずつ調節します。
2. パッドの打感触を確かめながら、さらに張り具合を微調整します。  
※ 1箇所のチューニング・ボルトを一度に強く締めないでください。ヘッドを均一に張れないため、適切な打感触が得られなくなるだけでなく、誤動作の原因にもなります。

## ■ PDX-8 (タム)

### 各部の名称



#### ご注意!

ご使用になる前に、必ずヘッドの張り具合を調節してください。

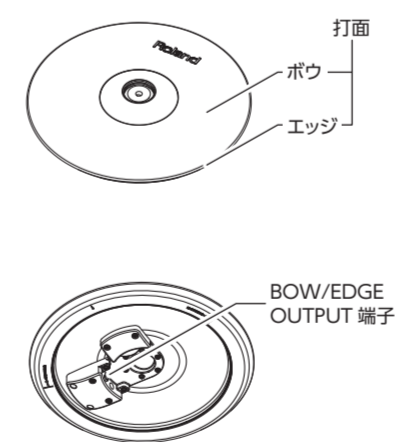
### ヘッドの張り具合を調節する



1. それぞれのチューニング・ボルトを、図のように対角線を結ぶ順に少しずつ調節します。  
張り具合は、アコースティック・ドラムの打感触と同じくらいが適切です。
2. 必要に応じて、ドラム・キーで張り具合を調節します。

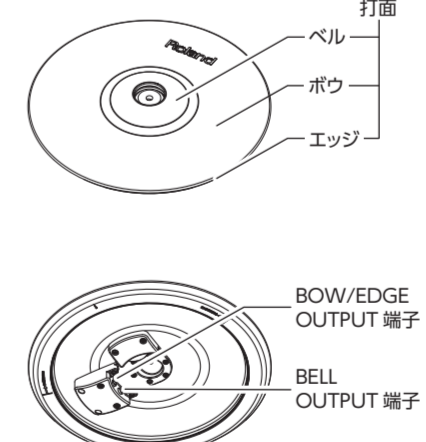
## ■ CY-12C (クラッシュ)

### CY-12C 各部の名称



## ■ CY-13R (ライド)

### CY-13R 各部の名称



#### ご注意!

ご使用の年月とともに、パッドのゴム表面が変色することがありますが、使用上には影響ありません。

### ケーブルの固定方法 (CY-13R / CY-12C)

